

# ハートクロス HEART CROSS

芳賀赤十字病院だより

vol.2<sup>2016</sup>  
April



特集

## 高年齢の妊娠・出産について

渡辺 尚 第一産婦人科部長

- 当院で産まれた赤ちゃんへ オリジナルメジャーバスタオルをプレゼント
- とちまるネットに参加します
- ~地域とつながる~ 登録医情報 小林歯科クリニック (芳賀町)  
普門院診療所 (益子町)

Topics.....

〈赤十字〉東日本大震災から5年「私たちは、忘れない。」復興プロジェクト  
小児医療連携の会「疾患を持つお子さんと学校生活」  
血液疾患で苦しむ患者さんのために…超低温フリーザーを寄贈いただきました

Information.....

看護師インターンシップ・就職説明会のご案内

## 特集

## 高年齢の妊娠・出産について

今号は、渡辺尚第一産婦人科部長が、女性の妊娠・出産の傾向について解説します。



渡辺 尚 第一産婦人科部長

### 出産年齢の現状は・・・

出産するお母さんの年齢が、年々あがっています。日本全国の過去50年間の35歳以上、いわゆる高齢出産の割合の大まかな推移を図1に示しました。これを見ますと、35歳以上での出産の割合は1980年では5%未満だったのですが、2012年では25%以上、つまり約30年で5倍以上にも上昇していることがわかります。

### 統計でみる、出産傾向

また、2015年の芳賀赤十字病院と2012年の全国の出産時年齢分布を図2に示しました。2015年の1年間に、芳賀赤十字病院でお産されたお母さんは316名いらっしゃいましたが、そのうち35～39歳が80名(25.3%)、40歳以上が25名(7.9%)で、全国におけるその出産年齢の割合を大幅に上回っており、芳賀赤十字

病院で出産するお母さんの約3人に1人が35歳以上であることがわかります。つまり、35歳以上の出産が、高齢というよりは当たり前前の時代になってきています。もちろん年齢が高くても、無事に元気な赤ちゃんを産む方は大勢いらっしゃいます。しかし、高年齢での出産は多くのリスクを伴うのも事実です。

図1 出産時年齢35歳以上の割合の推移全国統計

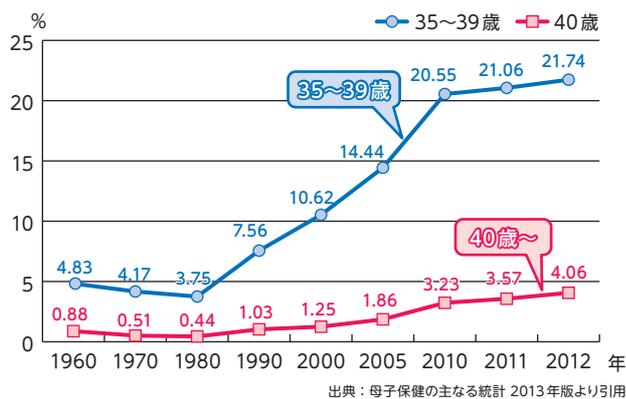
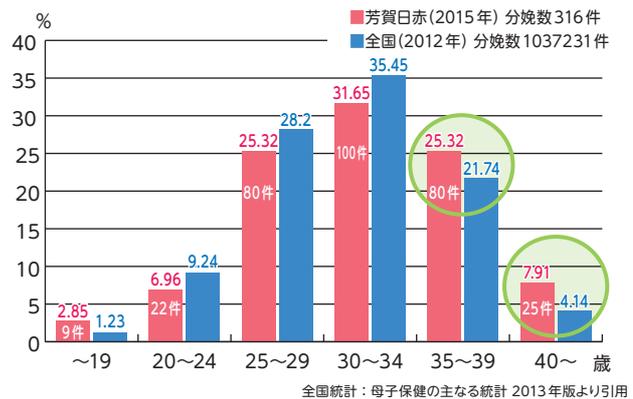


図2 出産時年齢分布～芳賀赤十字病院と全国統計～



### 高年齢での妊娠・出産は、それより若いころの妊娠・出産にくらべて、どう違うのでしょうか。

年齢があがるにつれて、体のさまざまな部分の体力が落ちていきます。卵巣や子宮も例外ではありません。卵巣機能は、30歳をすぎるところから少しずつ低下していくので、高年齢ではまず妊娠すること自体が難しくなっていきます。また、妊娠しても流産しやすくなります。20～30代前半での流産率は15%前後ですが、35歳では約20%、40歳では約35%、45歳では約60%が流産に終わります。流産の多くは、卵の老化に伴う染色体異常が原因ですが、子宮筋腫などの子宮の病気の頻度が高くなることも、流産や早産の原因となります。また胎盤の位置異常である前置胎盤の頻度も年齢とともに上昇します。

流産することなしに、妊娠を継続できた場合で心配されるリスクは全身の合併症です。妊娠30週を過ぎるころになると、母体の血液量は妊娠前の約1.5倍に増え、心臓や腎臓への負担が増します。高齢の場合、この変化に体が適応できず、妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病などの合併症を起こしやすくなります。また妊娠する前から、高血圧や糖尿病などの内科疾患を合併している妊婦さんの頻度も高くなります。

出産に関しても、高齢の妊婦さんの場合、難産や帝王切開の頻度が高くなります。その理由として考えられるのが、前述した子宮筋腫などの婦人科疾患、高血圧や糖尿病などの内科疾患、妊娠高血圧症候群や前置胎盤などの産科合併症の増加です。ところが、とくに合併症のない妊婦さんでも年齢が高くなるにしたがって帝王切開出産が増加していきます。これは、子宮の収縮力や全身の筋力、産道の柔軟性などのお産に必要な要素が年齢の上昇とともに低下するためと考えられます。

### それでは、高齢の妊婦さんは妊娠出産にどう向き合えばよいのでしょうか。

前述しましたリスクの増加があることは事実ですが、実際にはかなり個人差があります。リスクの中には、早い段階で発見できれば、重症化する前に医療が介入することによって、健康な赤ちゃんを授かることができる場合もありますし、食事などの生活習慣に気をつけることで事前に重症化を予防できる場合もあります。その時点での自分の状態を客観的に認識すること、そして決められた間隔で妊婦健診を受けることが大切です。インターネットや雑誌などの情報に頼らず、不安なことがあれば、医師や助産師に相談して下さい。そして状況を冷静に受け止め、医療者とともにしっかり対処することが肝心です。年齢が高いことで引け目を感じる必要はありません。子供を授かったことを喜び、新しい命を育てていることに誇りを持って下さい。若い妊婦さんに比べて豊富な経験を持っているわけですから、そのことを妊娠中の自己管理の面でも生かすことができれば、年齢の積み重ねは逆に大きな味方になるはずですよ。



## 当院で産まれた赤ちゃんへ

### オリジナルメジャーバスタオルをプレゼント



当院で産まれた赤ちゃんにママへ、芳賀赤十字病院オリジナルのメジャーバスタオルプレゼント(スタッフのお祝いメッセージ付)を始めました。

バスタオルのデザインは、当院で主に妊婦さんたちの“妊娠から出産まで”を支える助産師が考案。赤ちゃんの健やかな日々の成長を願い、優しい色合いとやわらかな肌触りの生地にメジャーと赤い風船をもつクマのプリントを取り入れました。お風呂上りなど身近に利用していただくことで、赤ちゃんの日々の成長を感じることができます。

今回最初にプレゼントを受け取った患者さんからは、「タオルの生地がやわらかいため、赤ちゃんにとって、とても使いやすい」と感想をいただきました。当院で、お産を希望される方の来院をお待ちしています。



90センチまで5センチごとに目盛表示されており、お子さまの日々の成長を実感することができます。

## 栃木県地域医療ネットワーク とちまるネットに参加します

平成28年6月～

「とちまるネット」は、患者さん同意のもと、診療情報を医療機関の間で共有して役立つ栃木県全域のネットワークです。芳賀赤十字病院は、平成28年6月から“情報提供施設”として同ネットワークに参加します。

とちまるネット(医療連携ネットワーク)で患者さんの診療情報を共有することにより、地域医療連携(病診連携・病病連携等)を推進し、診療に役立てることができます。

【情報提供施設】・・・”とちまるネット”で診療情報を提供する施設(病院) ※閲覧も可能

#### 患者の皆さまへ

患者さんの診療情報(薬、注射、検査結果、レントゲン画像等)が共有化され、より良い医療サービスを効率的に受けることができます。

- 患者さんに費用負担はありません。
- 情報開示に同意いただいた患者さんの情報のみ、閲覧対象となります。
- 患者さんの診療情報を守るため、ネットワークにはセキュリティ対策がされています。
- 患者さんの意思で、いつでも利用中止できます。

いずれも問合せは、地域医療連携課まで。Tel：0285-82-2195(内線：263)

#### 医療機関の皆さまへ

##### 《とちまるネット運用講習会のご案内》

「とちまるネット」をご利用いただくには、運用講習会の受講が必須となります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

日 時：平成28年5月9日(月) 午後7～8時

場 所：芳賀赤十字病院 東館1階会議室

内 容：とちまるネット運用講習会、ID-Linkについて

対 象：医師、医療従事者(事務も含む)等



©とちまるくん

～地域とつながる～

## 登録医情報

地域の先生がたは、地域の患者さんの医療を支える大切なパートナー。地域医療を支えてくれる医療機関の方々がいるからこそ、地域医療連携を進めることができます。

今号は、小林歯科クリニック(芳賀町)と普門院診療所(益子町)をご紹介します。



小林 康彦 院長

## 〈小林院長からのメッセージ〉

安心安全な歯科医療を皆さまに提供できるように、毎日研鑽していきます！

## 小林歯科クリニック (芳賀町)

〈対象疾患〉 歯および口腔内疾患

〈得意分野〉 歯周、補綴、外科

## ●当院との地域連携について、どのように考えていますか？

今までは主に口腔外科分野の特異疾患、難抜歯等が多かったですが、これからは在宅分野や周術期等口腔治療ケア分野でも幅広い連携が必要とされます。

## ●地域の方々へのメッセージ

芳賀町で地域医療に携わって30余年。その時々で、患者さまに最良の医療を提供できるように、日々悩んでいます。

微力ながら、地域の皆さまの健康・福祉に貢献できるように最大限頑張ります！

- 院 長：小林 康彦  
 ●住 所：栃木県芳賀郡芳賀町祖母井南1丁目7番地1  
 ●T E L：028-677-1900  
 ●診療科目：歯科、矯正歯科、小児歯科  
 ●休 診 日：日曜日、祭日と祭日のない週の木曜日



## 〈スタッフの皆さんからのメッセージ〉

「普門(あまねく開かれた門)」「個人の尊厳」「スピリチュアルケア」を基に、26年前に開院いたしました。常勤医師の増員とともにスタッフにも恵まれ、私の理想の医療が提供できてきました。それが地域医療にも反映され、地域の方々のお役にたてれば幸いです。

最前列左から2人目：田中貞雅理事長  
 右隣：田中 麻香院長

## 普門院診療所 (益子町)

〈対象疾患〉 内分泌疾患(糖尿病、甲状腺疾患)、脳性麻痺、関節痛、腰痛

〈得意分野〉 内分泌疾患の内服・注射管理、リハビリテーション、ペインクリニック

## ●当院との地域連携について、どのように考えていますか？

当診療所は、かかりつけ医として夜間休日でも緊急時には、診療所の診察はもちろん、「往診」も行っております。芳賀赤十字病院との医療連携で、二次救急医療の対応が必要な場合には地域の皆さまに、より安心で安全な医療の提供を行えるようになりました。また、法人内の介護施設とも密接に連携し、急性期後のリハビリテーションを中心とした医療・介護の一体化を進めていき、芳賀赤十字病院を中核とした県東地区においての地域完結型の医療提供体制の構築促進に貢献できればと思っております。

## ●地域の方々へのメッセージ

当診療所は、病気を科学的に診断し、治療法を十分に説明した上で本人の自己決定を尊重した医療をおこなっております。また、24時間365日対応をポリシーとして、医師をはじめスタッフ一丸となって患者さまに対応しております。

- 理 事 長：田中 貞雅 ●院 長：田中 麻香  
 ●住 所：栃木県芳賀郡益子町益子4469  
 ●T E L：0285-72-7122  
 ●診療科目：内科、麻酔科、泌尿器科、外科、整形外科、リハビリテーション科  
 ●休 診 日：火、水、祝祭日は休診。



## Topics

**<赤十字>東日本大震災から5年 「私たちは、忘れない。」復興プロジェクトを展開**

東日本大震災から5年。日本赤十字社(以下、日赤)では、3月に「私たちは、忘れない。」～未来につなげる復興支援プロジェクト～を展開。月間中、全国の日赤職員約6万人がシンボルイメージのバッジを着用し、勤務しました。

当院では、3月11日(金)を「赤十字職員救護服デー」として、正面受付窓口付近の職員らが「赤十字救護服」を着用して勤務。救護服を着た職員らの対応に、「今日で5年経つんだね」と感慨深げに話す患者さんもいらっしゃいました。また、院内赤十字コーナーに東日本大震災時に被災地に出勤した当院救護班らの活動記録や復興支援パネルを展示。3月30日(水)には、「～未来につなげる復興支援プロジェクト～ Spring Concert」を開催し、真岡女子高等学校合唱部の方がたに美しい歌声を披露いただきました。



△職員らが、赤十字救護服を着用して窓口対応。

**<医療連携>小児医療連携の会を開催 テーマは「疾患を持つお子さんと学校生活」**

3月3日(木)「第3回小児医療連携の会」を開催。今回は『疾患を持つお子さんと学校生活』をテーマに、医療従事者だけでなく学校関係者、行政機関の多くの方がたに参加いただきました。

会では当院小児科医師らがテーマごとに対応方法などを説明しました。

- 「インフルエンザ等の流行性疾患への対応」保科 優第二小児科部長  
疾患別の出席停止の必要性の有無や期間登校(登園)の目安を説明。
- 「食物アレルギーについて～学校での対応を中心に～」坂本 沙織小児科医師  
食物アレルギー児童(生徒)への対応方法やアナフィラキシー発症時の対応方法(エピペンを打つタイミング)などを説明。

- 「平成26年法改正に伴う成長評価の演習」菊池 豊第一小児科部長

身長・体重を用いた成長評価の演習、低身長の子への早期治療介入の必要性について解説。

『てんかん、発達障害児への対応』では、自治医科大学長嶋先生(小児神経・発達専門医)に、小児てんかんの診断や治療法、発達障害児の対応法や治療法について講義していただきました。



△講義のようす

自治医科大学長嶋先生(小児神経・発達専門医)

**血液疾患で苦しむ患者さんのために・・・超低温フリーザーを寄贈いただきました**

野田 一彦さま(宇都宮市)より、血液疾患に関する医療機器の整備に役立ててほしいと、「超低温フリーザー」を寄贈いただきました。このご厚意に感謝の意を表し、2月15日(月)安田病院長が、感謝状を野田氏に贈呈しました。

数年来通院している野田氏は、昨夏当院に救急搬送され入院。その際を振り返り「救急搬送され入院した当初は、体調が悪く辛くて仕方なかった。しかし、松山先生(主治医)たちの治療により、快復することができた。この恩を返したいという思いから、血液疾患で苦しむ患者さんの治療のために役立ててほしい、と寄贈した」と寄贈への想いを話しました。

安田病院長は、「寄贈いただいた超低温フリーザーは、検査室に配置し利用させていただく。これから、大切に使用していきます」と述べました。今回の寄贈により、造血幹細胞保存のための安定的な血液保冷保管が可能となりました。ご寄贈、ありがとうございました。



△贈呈式にて

(左:松山 智洋血液科部長 中央:野田 和彦さま 右:安田 是和病院長)

## Information



### 看護師インターンシップ・看護師就職説明会のご案内

当院に入職希望の方はもちろん、将来入職を目指す学生の方、就職先を悩んでいる方、1度当院の看護を体験してみませんか。

#### ●看護師インターンシップ

インターンシップでは、病院の雰囲気や看護の実践を病棟などで体験することが可能です。また、先輩看護師との対談もあり、先輩看護師に直接質問することができます。

#### ●看護師就職説明会

福利厚生をはじめ看護部の赤十字活動・教育体制、当院での勤務などについて説明をします。先輩看護師と昼食をとりながら懇談し、入職後への心配や悩みごとを相談することができます。

皆さまの参加、お待ちしております



<開催案内>	5月7日(土)	7月22日(金)	8月18日(木)	8月19日(金)
看護師就職説明会(9:00-13:00)	○	○	○	○
看護師インターンシップ(13:00-16:30)	○	○	○	○

<問合せ> 芳賀赤十字病院 看護部 Tel 0285-82-2195 (代表)

## 表紙紹介

読者の方に「読みたい!」と手に取ってもらえるよう、表紙は当院の行事などで撮影した「イチ押しの1枚!」を掲載しています。

今号の表紙は、東日本大震災で出動した日赤救護班第1班(以下、1班)のメンバーたちです。

2011年3月11日14時46分、震度6強の揺れが発生(東日本大震災)。当院は、人的被害はなかったものの、手術室が水浸しになるなどの建物への被害・自家発電と地下水以外のライフライン断絶という状況に陥りました。院内も混乱するなか、自分たちの食糧すら十分に持参できないまま、1班は同日夜被災地に向け出動。茨城県北茨城市で救護活動を行い、3月13日に帰院しました。

今回、写真撮影のために集合した救護員たち。それぞれが「当時は院内の食糧を集め、着の身着のまま出動し、本当に大変だった」など当時を振り返りました。

あれから5年。あの時の想いを胸に・・・私たちは、忘れない。



5年の時を経て、あらためて当時の救護員が集合。震災当日の混乱の中、カメラを持参できず出動したため、1班のみメンバー集合写真がありませんでした。今回が最初の記録となります。

### 芳賀赤十字病院の理念及び基本方針

< 理 念 > 患者さま本位の医療を心とします。

< 基本方針 >

1. 人道、博愛の赤十字精神にのっとり、すべての患者さまの人権と意思を尊重した医療を提供します。
2. 医学の進歩に伴う医療水準向上のために、常に自己研鑽に努め、最新かつ安全な医療を提供します。
3. 地域の中核病院として、医療、保健、福祉の関係機関との連携を推進し、地域医療の発展に寄与します。
4. 災害救護活動に積極的に参加し、社会に貢献します。



芳賀赤十字病院

〒321-4306 栃木県真岡市台町 246-1  
TEL 0285-82-2195 (代) FAX 0285-84-3332 <http://www.haga.jrc.or.jp/>

詳しくは [芳賀赤十字病院公式 HP](http://www.haga.jrc.or.jp) <http://www.haga.jrc.or.jp>

[芳賀赤十字病院公式 facebook](#)

どちらも「芳賀赤十字病院」で検索

芳賀赤十字病院

検索



編集協力 / 榎松井ピ・テ・オ・印刷